

江南市農業振興アクションプラン 概要版

第1章 はじめに

1. 背景

本市では、高度経済成長期以降、都市化による宅地と農地の混在化が進んだことや、農業従事者の高齢化と担い手不足等により耕作放棄地が増大するなど、農業を取り巻く環境は厳しいものがあります。このような中、本市が抱える農業の課題に向き合い、持続的な営農が行われるよう、江南市農業振興アクションプランを策定するものです。

2. アクションプランの考え方

本市では、江南市の将来像を実現するため市民と行政の“総合的かつ計画的なまちづくりの指針”として平成30年3月に「第6次江南市総合計画」を策定し、農業振興の成果目標として「効率的で安定的な農業が営まれ、地域の特色ある農産物が育てられている」を掲げています。

本アクションプランは、本市の農業を取り巻く現状と課題を分析し、平成30年6月に愛知北農業協同組合が策定した地域農業ビジョンを踏まえ、第6次江南市総合計画の実現に向けて取り組むものです。

3. アクションプランの期間

アクションプランの期間は第6次江南市総合計画と整合させるため、令和9年度を最終目標年度としていますが、総合計画の基本計画（前期）が令和5年度に終了することから、今回、基本計画（後期）が始まる令和6年度～9年度にあわせて改訂するものです。

年度		30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
総合計画	基本構想	→									
	基本計画	→					→				
江南市農業振興アクションプラン		→					→				

第2章 江南市の農業の現状と課題

1. 江南市の主要な農業生産について

本市が野菜指定産地として秋冬はくさい、秋冬ねぎ、春だいこんの三品目について指定を受けていますが、近年その作付面積と収穫量は減少しています。

なお、秋冬はくさいについては、令和6年5月をもって野菜指定産地の要件を満たさなくなるため解除となる予定です。

2. 農業従事者の高齢化について

全国の農業従事者は年々高齢化している傾向があり、本市においても同様に高齢化が進んでいます。

農業従事者の平均年齢		(歳)
	H27	R2
全 国	67.0	67.8
江南市	69.5	70.9

資料 農林業センサス

3. 担い手不足（農家の減少）について

全国の農林業経営体数は減少傾向が進んでおり、本市においても同様です。

農林業経営体数（経営耕地面積が30a以上等の一定規模以上の農業経営者等）

	H22	H27	R2
全国(単位:1000体)	1727	1404	1092
江南市(単位:1体)	187	147	114

資料 農林業センサス

4. 耕作放棄地の増大について

農業従事者の高齢化と担い手の不足により市内の耕作面積は減少しており、耕作放棄地面積は横ばい傾向ですが、耕作面積に対する割合は増加しています。

また、雑草繁茂に関する市民からの苦情数は増加しています。

江南市内の農地等の面積 (ha)

	R2	R3	R4
農地面積	825	815	804
耕作放棄地面積	206	206	206

江南市内の雑草に関する苦情件数 (件)

苦情件数	381	430	437
------	-----	-----	-----

5. 農業用施設について

土地改良区が管理する多くの農業施設は、整備から約40年から50年経過しており、近年、機能低下や老朽化等による漏水・破損が顕在化し、修繕などの維持管理費が増加しています。

第3章 江南市の農業が目指す姿と対応策

・江南市の農業が目指す姿

本市の農業が目指す姿は、第6次江南市総合計画の成果目標である「効率的で安定的な農業が営まれ、地域の特色ある農産物が育てられている」姿であります。現状は農業従事者の高齢化、担い手不足、その結果として耕作放棄地の増大といった様々な課題に直面しています。このことから、目指す姿を実現するため、それに向けた5つの目標を掲げ、以下のとおり取り組みます。

目標① 「農」と触れ合える生活の提供

幅広い年齢層の市民に対し「農業」という生業だけでなく、もっと身近に「農」と触れ合える環境を提供することで、農に対する親しみをもち、将来の担い手となる人材を育む安定的な農業が営まれる環境を醸成できるよう、以下のことについて取り組みます。

- (ア) 新しく農に取り組むようになった小規模農家に対する技術的支援
- (イ) 農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定による賃借の活用等
- (ウ) 地産地消の推進
- (エ) 市民菜園の活用
- (オ) 食育との連携

目標② 「業」としての農業の担い手確保

新たな担い手を育成する環境を醸成しながら本市の農業の中核を担う担い手の確保のため、以下のことについて取り組みます。

- (ア) 農業塾卒業生への支援
- (イ) 愛知県が認定する認定研修機関卒業生への支援
- (ウ) 農福連携の推進
- (エ) 有機農業に関する推進

目標③ 農地の集積・集約化等による農業の生産性の向上

農地の集積・集約を行い農業の生産性を向上させるため、以下のことについて取り組みます。

- (ア) 農地利用推進地区の設定
- (イ) 農業用施設の整備と維持管理
- (ウ) 農業機器整備の支援

目標④ 地域ブランドの確立・目標⑤ 販路への支援

野菜指定産地として指定を受けている秋冬ねぎ、春だいこん等の地元農産物を使った料理をこうなん産業フェスタで紹介するなど、地域ブランドの活性化のためPRに努めます。

また、農業者から販路についての相談等がありましたら、愛知北農業協同組合の他、関係機関との連携を図っていくとともに、市役所1階ロビーにおける野菜販売の場所の提供や、こうなん産業フェスタへの出店依頼など、販路の拡大に繋がる取組を推進します。